

2022年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2022年8月12日

上場会社名 Chatwork株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4448 URL https://go.chatwork.com/ja/
 代表者 (役職名) 代表取締役兼社長執行役員CEO (氏名) 山本 正喜
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼執行役員CFO (氏名) 井上 直樹 (TEL) 050(1791)0683
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期第2四半期の連結業績(2022年1月1日~2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第2四半期	2,150	—	△247	—	△248	—	△229	—
2021年12月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2022年12月期第2四半期 △248百万円(—%) 2021年12月期第2四半期 一百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第2四半期	△5.79	—
2021年12月期第2四半期	—	—

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。
 2. 2021年12月期第3四半期より連結財務諸表を作成しているため、2021年12月期第2四半期の数値及び対前期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年12月期第2四半期	5,301	3,290	61.0
2021年12月期	5,168	3,402	64.3

(参考) 自己資本 2022年12月期第2四半期 3,232百万円 2021年12月期 3,325百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年12月期	—	0.00	—	—	—
2022年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年12月期の連結業績予想(2022年1月1日~2022年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,451	32.0	△1,086	—	△1,082	—	△1,047	—	△26.49
	~4,552	~35.0	~△944	—	~△940	—	~△905	—	~△22.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

詳細は添付資料P.6「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年12月期2Q	39,735,115株	2021年12月期	39,425,840株
② 期末自己株式数	2022年12月期2Q	2,153株	2021年12月期	877株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年12月期2Q	39,537,258株	2021年12月期2Q	37,015,316株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についての注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実績の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間において、継続的な事業成長の実現に向け、引き続き新規顧客獲得に向けた営業活動の強化、広告・マーケティング活動の強化、既存サービスの機能強化に積極的に取り組んでまいりました。この結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高2,150,486千円、営業損失247,922千円、経常損失248,036千円、親会社株主に帰属する四半期純損失229,057千円となりました。なお、先行投資として、採用が順調に進んでいることや、広告・マーケティング活動への投資により、営業利益以下の各段階利益がマイナスとなっております。

セグメント別の経営成績は次の通りであります。

①Chatworkセグメント

Chatworkセグメントは、引き続き主力サービスである「Chatwork」の利点を訴求し、新たな機能追加と顧客の開拓に努めました。以上の結果、売上高は2,019,804千円、セグメント損失は290,803千円となりました。

なお当セグメントが当社の主力事業であり、本社機能も含めて各間接費の全てが当セグメントの維持・拡大のために費やされていることから、間接費の全額を当セグメントにおける費用として計上しております。

②セキュリティセグメント

セキュリティセグメントについては、引き続き当社としては積極的な事業拡大は行わない方針としております。その結果、売上高は130,681千円、セグメント利益は42,881千円となりました。

なお、当セグメントのセグメント利益については、前述のとおり間接費を全てChatworkセグメントにて計上していることから、当セグメントの売上高より当セグメントに要した広告宣伝費、販売促進費及び業務委託費等の直接経費のみを控除した金額を計上しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べて133,928千円増加し、5,301,963千円となりました。これは主に、無形固定資産が142,927千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて246,073千円増加し、2,011,145千円となりました。これは主に、短期借入金が300,000千円増加、契約負債が122,938千円増加、未払金が150,967千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて112,144千円減少し、3,290,817千円となりました。これは主に、資本金が68,218千円増加、資本剰余金が68,218千円増加、利益剰余金が229,057千円減少したことによるものであります。この結果、自己資本比率は61.0%(前連結会計年度末は64.3%)となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて25,652千円増加し、3,225,706千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは34,981千円の収入となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失247,574千円の計上、前払費用が171,276千円減少、契約負債が122,938千円増加したことによるものであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、262,182千円の支出となりました。これは主に、無形固定資産の取得に

よる支出205,530千円によるものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、252,644千円の収入となりました。これは主に、短期借入れによる収入500,000千円、短期借入金の返済による支出200,000千円、長期借入金の返済による支出59,500千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期の業績予想につきまして、全体売上高は前連結会計年度比+35%以上、Chatworkセグメントで前連結会計年度比+40%以上の成長を目標としつつ、ビジネスチャット市場の拡大におけるシェア獲得を最重要と考え投資をおこなっている事を踏まえ、業績予想を作成いたしました。

2022年12月期第2四半期累計期間においては、主力のアカウント事業はARRで前連結会計年度比+43%の高成長を実現する非常に好調な進捗となったものの、プラットフォーム事業ではM&AおよびPMIの体制構築に注力しております。その為、今期の業績予想は、最重要のChatworkセグメントの売上高で前連結会計年度比+35%~+40%の成長となる見込みであります。

レンジにつきましては人員・広告への投資、プラットフォーム事業でのクロスセルによる売上高の変動を想定しております。業績見通しの詳細は下記の通りでございます。

売上高	4,451百万円~4,552百万円 (前期比)	+32.0%~+35.0%
Chatworkセグメント 売上高	4,256百万円~4,414百万円 (前期比)	+35.0%~+40.0%
売上総利益	2,949百万円~3,065百万円 (前期比)	+23.9%~+28.8%
営業利益	△1,086百万円~△944百万円 (前期比)	—
経常利益	△1,082百万円~△940百万円 (前期比)	—
親会社株主に帰属する当期純利益	△1,047百万円~△905百万円 (前期比)	—

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,200,053	3,225,706
売掛金	312,115	298,950
前払費用	446,392	310,981
その他	75,541	104,247
貸倒引当金	△411	△411
流動資産合計	4,033,692	3,939,474
固定資産		
有形固定資産	45,414	34,278
無形固定資産		
のれん	318,894	302,110
その他	587,875	747,586
無形固定資産合計	906,769	1,049,697
投資その他の資産	182,158	278,512
固定資産合計	1,134,342	1,362,488
資産合計	5,168,034	5,301,963
負債の部		
流動負債		
未払金	447,048	296,080
未払費用	93,002	76,451
未払法人税等	23,276	24,168
契約負債	—	772,200
前受金	649,262	—
賞与引当金	—	21,600
短期借入金	—	300,000
1年内返済予定の長期借入金	102,000	102,000
その他	46,138	75,845
流動負債合計	1,360,728	1,668,346
固定負債		
長期借入金	365,500	306,000
繰延税金負債	38,843	36,798
固定負債合計	404,343	342,798
負債合計	1,765,072	2,011,145
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,525,611	2,593,829
資本剰余金	2,511,471	2,579,689
利益剰余金	△1,711,645	△1,940,703
自己株式	△42	△42
株主資本合計	3,325,394	3,232,773
非支配株主持分	77,567	58,044
純資産合計	3,402,962	3,290,817
負債純資産合計	5,168,034	5,301,963

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年6月30日)
売上高	2,150,486
売上原価	607,019
売上総利益	1,543,467
販売費及び一般管理費	1,791,389
営業損失(△)	△247,922
営業外収益	
受取利息	9
為替差益	11,883
雑収入	738
営業外収益合計	12,631
営業外費用	
支払利息	3,120
株式交付費	9,555
雑損失	69
営業外費用合計	12,745
経常損失(△)	△248,036
特別利益	
固定資産売却益	461
特別利益合計	461
税金等調整前四半期純損失(△)	△247,574
法人税、住民税及び事業税	3,051
法人税等調整額	△2,044
法人税等合計	1,007
四半期純損失(△)	△248,581
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△19,523
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△229,057

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年6月30日)
四半期純損失(△)	△248,581
その他の包括利益	
四半期包括利益	△248,581
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△229,057
非支配株主に係る四半期包括利益	△19,523

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)	
当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失 (△)	△247,574
減価償却費	69,093
のれん償却額	16,783
株式報酬費用	25,531
株式交付費	9,555
受取利息	△9
支払利息	3,120
為替差損益 (△は益)	△209
固定資産売却損益 (△は益)	△461
売上債権の増減額 (△は増加)	13,165
前払費用の増減額 (△は増加)	171,276
賞与引当金の増減額 (△は減少)	21,600
未払金の増減額 (△は減少)	△153,843
未払費用の増減額 (△は減少)	△16,551
未払法人税等の増減額 (△は減少)	1,907
契約負債の増減額 (△は減少)	122,938
その他	5,838
小計	42,159
利息の受取額	9
利息の支払額	△3,120
法人税等の支払額	△4,066
営業活動によるキャッシュ・フロー	34,981
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△9,420
有形固定資産の売却による収入	551
無形固定資産の取得による支出	△205,530
投資有価証券の取得による支出	△29,880
資産除去債務の履行による支出	△18,181
敷金及び保証金の回収による収入	280
投資活動によるキャッシュ・フロー	△262,182
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	500,000
短期借入金の返済による支出	△200,000
長期借入金の返済による支出	△59,500
新株発行による支出	△9,555
株式の発行による収入	21,700
財務活動によるキャッシュ・フロー	252,644
現金及び現金同等物に係る換算差額	209
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	25,652
現金及び現金同等物の期首残高	3,200,053
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,225,706

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これによる主な変更点として、新規契約時に顧客から支払を受ける初期費用について一時点で売上を計上しておりましたが、月額の利用料と一体のものとして取り扱い、一定の期間にわたって計上する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,008千円減少し、営業損失、経常損失、税金等調整前四半期純損失は、それぞれ1,008千円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高への影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「前受金」は、第1四半期連結会計期間より「契約負債」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計 (注)
	Chatwork セグメント	セキュリティ セグメント	計	
売上高				
一時点で移転される財	78,481	130,681	209,162	209,162
一定の期間にわたり移転される財	1,941,323	—	1,941,323	1,941,323
顧客との契約から生じる収益	2,019,804	130,681	2,150,486	2,150,486
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	2,019,804	130,681	2,150,486	2,150,486
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	2,019,804	130,681	2,150,486	2,150,486
セグメント利益又はセグメント 損失(△)	△290,803	42,881	△247,922	△247,922

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 当社における主力事業はChatworkセグメントであり、本社機能も含めて間接費の全てがChatworkセグメントの維持・拡大の為に費やされていることから、間接費の全額をChatworkセグメントにて計上しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間のChatworkセグメントの売上高は1,008千円減少し、セグメント損失は1,008千円増加しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。